

「第2回 阿武隈川上流緊急治水対策環境委員会」議事録（要旨）

日時：令和4年3月14日（月）13：30～15：00

場所：国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所 会議室（WEB会議形式併用）

出席者：長林委員長、服部委員、田端委員、中村委員、高橋委員、黒沢委員、川越委員、駒木根委員、堀江委員、齋藤委員、福島委員

～主な委員意見～

- ・表土の撒き出し、水際土砂の埋戻しといった配慮事項は先進的で良い。一方で、効果が出るかは不明であり、コスト次第では非効率的になるため、注意が必要。河川水辺の国勢調査で外来種範囲は分かってきているため、特に外来種の群落などで設定するとよいと考える。今回の案で良い環境ができるため、親水性、地域の利用の観点からアクセスし易いような工夫も計画に入れ込むことも考えられる。治水と環境の両立の観点での事例として地域にアピールしてもらいたい。
- ・河道面では問題は無いと考えるが、右岸側に溜池が見られる。水田に使われているのか、利用状況を把握しつつモニタリングするとよい。
- ・今回の計算条件で、掘削面は草本や樹木を見込んだ計算となっているか。樹木再繁茂も想定するならより掘削が必要となる。
- ・緩傾斜掘削によるヤナギ再繁茂抑制について、一般論としては問題無いが、当該区間は軟岩の上に薄く土層が乗っている状態のため、実際に再繁茂が抑制できるのか留意しながら進めてもらいたい。
- ・94.8kのように当該地区の平水位のコントロールポイントとなる岩河床部分を保全する案になっており、利水面への影響も回避できており良い。94.6kのように、断面に砂質土が露出するような箇所は、必要に応じて護岸を検討するなどメリハリの利いた整備が必要。96.0kのように、断面が礫になる箇所は、ほぼ砂州の高さまで掘削しており、掘削面も含めて砂州の一部になる可能性がある。95kより上流では河原をつくり、95kより下流では複断面的な高水敷にツルヨシを含む覆土を行うのがよい。
- ・事業区間の環境変化に注視することが重要。工事中、工事後のモニタリングを検討してもらいたい。
- ・平水位+1mの掘削だと樹木再繁茂しやすい。今回の平水位起点の緩傾斜掘削は良い再繁茂対策と考える。一方で、平水位が基準となるため、縦断的な水位の管理は必要。
- ・維持管理の観点からモニタリングは重要と考える。再樹林化の心配もあるので対応を考えていきたい。利用面では、郡山で坂路をつくって河を利用してもらえそうな取組も行っている。
- ・これまでの議論を踏まえ、委員会としては事務局提案の掘削案②を採用する方針がよいと考える。